

男女1500メートル

日本インカレ

この勢いをチームの力に！

ともに表彰台

上田未奈 (中央)

山本雄大 (中央)

4000メートルで堀井が5位入賞

日本インカレの4000メートルで、今期急成長を遂げた堀井浩介（経営3）が5位入賞を果たした。しかし、練習をしっかりと積めてこれなかったために決勝ではバテてしまった。来年は優勝できるように精進していきたいと語った。



▲力走する堀井



▶表彰台での山本（右）

弱みに立ち向かい成果

上田未奈

上田は「今回は優勝を狙っていたので悔しい」と振り返る。「ラストの競り合いが重要になってくるのでスピードの対応を意識していた」とも。

今シーズン、多くのレースで入賞してきた上田は「フレッシュ」を感じていなかったといえる。しかし、入賞したいという気持ちが強くなった。



▲表彰台での上田（右）

積極的なレースで雪辱

山本雄大

山本は、5月の関東インカレの1500メートル決勝で惜しくも入賞を逃した。今大会は学生最後の1500メートルとあって思い入れが強かったという。山本は予選、決勝とも積極的なレースを展開した。

「関東インカレでは後方から行って失敗をしてしまった。その失敗を生かすことができた」とレースを振り返った。

天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）が9月11日から3日間、大阪府・ヤンマースタジアム長居で開催された。男女1500メートルでは山本雄大（経営4）が3分51秒88で、上田未奈（経済1）が4分21秒61とともに3位に入賞、表彰台に上がった。4000メートルでは、堀井浩介（経営3）が予選でセカンドベストを出して5位に入賞した。期待されたリレー種目は、惜しくも予選敗退した。来年は再び地元熊谷市での開催となる。

【吉田美咲、写真も】

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで ▶ j-sports@josai.ac.jp

サッカー部

彩の国カップ決勝は延長戦に突入

2度目の天皇杯出場を惜しくも逸す

天皇杯出場をかけた今年度の彩の国カップ埼玉県サッカー選手権の決勝は猛暑の下、8月23日、埼玉スタジアム第3ラウンドで行われた。相手は東京国際大。1-1で延長戦に突入。2点を失った埼玉大は、後半に相手のゴールを奪った。延長戦に突入。2点を失った埼玉大は、後半に相手のゴールを奪った。延長戦に突入。2点を失った埼玉大は、後半に相手のゴールを奪った。



県大学1部リーグは優勝果たす



▶毎試合、グラウンドと休まずに練習を続ける選手たち

昨年は県大学1部リーグで優勝し、関東リーグ昇格戦に挑んだが、得点が1点に留まり、3度目の関東リーグ優勝を果たせなかった。県大監督は「昨年の悔しさを胸に今年こそはと強い気持ちで今までやっていた。チーム状態は非常にいいので、一致団結してチャレンジしたい」と抱負を語った。

7人体制で運動部を盛り立てる

全学応援団

今春まで齋藤優輝・團氏行（現代政策3）1人だった全学応援団に新入生6人が一気に加入。7人体制で運動部の活動を盛り立てる。紅一点は花咲徳栄高で応援団長を務めていた増田崇高（経営1）。高校2年の時には、選抜大会に出場した野球部の応援で甲子園も経験している。高校3年生の時に、一人で頑張っている齋藤先輩のことを応援団の先輩から聞いて、入学後、もう一度応援団をやるという気持ちで頑張った。

援団をやりたいう気持ちで頑張った。援団をやりたいう気持ちで頑張った。援団をやりたいう気持ちで頑張った。援団をやりたいう気持ちで頑張った。援団をやりたいう気持ちで頑張った。援団をやりたいう気持ちで頑張った。



▲紅一点の増田さん（左から3人目）は高校応援団長経験者

ともに二回戦敗退の苦い結果

男女ソフトボール部

8月20日から9月1日までの4日間、男子は三重県志摩市で、女子は同じく三重の伊勢市で開催された第50回全日本学生男女選手権大会に参加した。大学の頂点のチームを決める大会であり、最高学年で引退する選手も多いため、選手、監督、そして応援する人々にも熱が入る大会だ。

男子の初戦、城西大学は福岡の九州産業大学との試合に臨んだ。後攻の城西大学は初回裏、3点を挙げ相手に大きなリベンジを与えた。その後、試合は徐々に進み、出塁や塁打を与えたものの得点は許さず、3-0のま逃げ切った。



▲試合で円陣を組む男子ソフトボール部

また、恵大候にも奪われた。城西大学は攻撃が決まらず、0-2で二回戦敗退となった。女子の初戦の相手は、日本福祉大学。愛知県。乱打戦となった試合、三回裏、2死から4番寺岡優花（経営2）が右翼越えの一塁打を放ち、ランナーを運して先制。投手米あかね（経営3）が打たれながらも1点を守りきり、二回戦へと駒を進めた。

周りに支えられJスポも選手に続いていく

記者の目

「駅伝部のマネージャーになりたい」。それだけを思い入学したが、思い続けた夢は3カ月という短い期間ではなくなかった。目標を失い何も見えなくなり、空っぽになった。そんな私に手を差し伸べくれたのが、「J スポ」という存在だった。

思いが次第に強くなった。3年生の時の箱根駅伝特集号ではメンバー紹介に、例年の顔写真とは違い、走っている写真の使用を提案した。世話になっていた先輩選手との何気ない会話から思いついたことだった。採用されて、やりがいを感じた瞬間だった。

楽しみにJ スポを読んでもくれる人、どんな大会にも「頑張れ」と送り出してくれる母……。入学当時、思い描いた立場ではなくとも、いつも支えてくれた友人や先輩のおかげで頑張れた。感謝でいっぱいだった。一般生と部活生はかわりが少ない。少しでも架け橋になればという思いでやってきた。世界で活躍する選手が出てくる中で、J スポも選手に続いていくような存在になってほしいと思う。

【吉田美咲】

熊澤が県優秀選手賞



▶ 団体形勢の城大Aチーム



▲ 展開戦の城大Aチーム 左から人員が熊澤

Column プロスポーツ観戦

観客参加型の 仕掛けが随所に

米国マネジメント研修では毎年、スポーツビジネスを学ぶ一環としてプロスポーツ観戦をしている。アメリカの四大プロスポーツと言えば、野球、アメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケーであるが、ロスアンゼルス近郊では、サッカーやNASCARシリーズというカーレースなども人気がある。今年の9月は野球のメジャーリーグ、ドジャース対エンジェルスという地元対決の好ゲームを観戦することができた。

アメリカのプロスポーツには観客参加型の仕掛けが随所に盛り込まれている。ハーフタイムやインニングの間など、ホームチーム専属のチアリーダーによるパフォーマンスやスポンサー提供賞品が当たるゲーム、カップルを大スクリーンに映し出し、映されたカップルはキスをしなければならない「キスカム」など、スポーツにあまり詳しくない観客もその場にいたら自然と巻き込まれてしまう。野球では観客のストレッチのために設けられた恒例の時間があり、7回表が終わると「Take me out to the ball game」を観客全員が立って歌う。これからメジャー観戦に行こうと考えている人は、この歌を暗記していくとさらに楽しめるだろう。

米国マネジメント研修では、野球観戦だけではなく、球場ツアーに参加して、球団の歴史やビジネス戦略なども学んでいる。

【経営学部准教授 山口理恵子】

躰道優勝大会 5競技で優勝

躰道部

埼玉県躰道優勝大会は6月21日、入間市武道館で開かれた。新人法形で小澤玄也（経済1）、級位法形で熊澤俊郎（現代政策2）、男子級位実戦で菅原大貴（経営3）、団体法形で城西大Bチーム（混成）、展開戦で城西大Aチーム（男子）がそれぞれ優勝した。総合優勝も優勝を逃して3位だったが、熊澤が優秀選手賞を受賞した。

「Jスボの新人生歓迎特別号でも紹介したが、躰道とは、沖縄発祥の手（ティ）という空手の祖先のような武道を母体に1985年につくられた武道。実戦や法形の中で、前転や後転、側転などの基本的な動きのほかに、宙返りやバック転など、

模範的な動きも行う。個人、団体のほか、展開と呼ばれる競技があるのも特徴だ。

熊澤は、入学後の部活動の際に顔を覚えてもらった先輩たちから熱心に勧誘されて、練習を見学。先輩たちが楽しそうに活動しているを見て入部を決めたという。今年4月に腕を負折して1カ月、練習ができなかった時期があったが、5月に復帰してからは、自分でも感じるほど必死で練習に取り組んだという。熊澤は「躰道とは、今の自分にとって心身を鍛錬する欠かせないので、きない重要な存在。これからも勉強、部活動ともに頑張っていこうと思います」と話している。

堀井とともに予選でベスト更新



▲ 佐藤（左）、堀井（右）

女子1500mで上田は5位入賞



全日本女子駅伝への出場決める 関東女子駅伝対校選手権

シード権獲得へ決意！ 100%に仕上げていく

第21回関東女子駅伝対校選手権大会は9月27日、千葉ニュータウン中央周回コース（6区間、30.6km）で行われた。城西大学は6位（1時間42分11秒）でゴールし、10月25日に仙台市で行われた第33回全日本女子駅伝対校選手権大会への出場権を獲得した。

大会初レースとなった高沢真歩（現代政策1）が、3区で見事に区間賞に輝いた。高沢は「3位という目標を意識すると緊張してしまう。楽しく走ろうと思ったと新人らしい言葉を口にした。区間賞はうれし

しいが、タイムは満足できない」とレースを振り返り、「全日本では練習の成果を出し切り、入賞してシード権を獲得したい」と決意を語った。高沢や今期、トラック種目で活躍している上田未奈（経済1）ら若い力が頼もしい。

レース後の報告会で鈴木尚人監督は「9月の合宿で故障者が出てしまいいい、5、6割程度の仕上がった。2、3番以内に入るという目標を立てていたが、5割、6割の状態では戦えない。全日本では100%に仕上げていきたい」と抱負を語った。

【上田美咲 写真も】

佐藤 惜しい2位

陸上日本選手権

第99回日本陸上競技選手権大会は6月26日から3日間、新潟市のデンカックスワンスタジアムで開かれた。男子400mで佐藤孝太郎（経営3）が46秒12で2位、堀井浩介（経営3）が46秒74で3位入賞した。佐藤は10連覇中の第1入賞者金丸祐三（大塚製薬）をリード、ほぼ同時にゴールに飛び込んだが、最後にかわされて目黒選手権の獲得はならなかった。佐藤は予選で45秒58、堀井も45秒85といずれも日本新記録。城西大記録更新で45秒58を入賞した。また、女子1500mでは上田未奈（経済1）が、前半から前方に位置取りし、表彰台を逃したものの5位に賞した。



▲ レース後の女子駅伝部



▲ 高沢真歩

高沢 初レースで 3区の区間賞

総合グラウンドのトラック改修

さわやかな青色に

総合グラウンドのトラックが改修され、さわやかな青色の走路に生まれ変わった。公認一周400m、6コースに敷かれたいた走路はこれまで赤色（レンガ色）の合成ゴムシート（厚さ14mm）だったが、老朽化が進んでいた。整備工事は8月初めから始まり、10月に終了。目にも鮮やかな青色のウレタンチップ舗装（13×18mm）の走路になった。現在、日本公認の陸上競技場は48カ所だが、うち青色のトラックは30カ所という珍しいトラックだ。

今回の青色は、水田孝子理事長の意向で決まった。赤色は興奮するのに対し、青色は呼吸、脈拍、瞬きの数が減少しリラックスして集中力が高まるとされる。青色のトラックには、鎮静効果があるためランナーはリラックスすることができ、また凝視力が向上するため、まっすぐ走れるようになるそう。レンガ色より青色の方が、記録のバラつきが少なくなったとの研究報告もあり、最近では青色のトラックが増える傾向にある。

陸上競技部の千葉佳裕監督は「選手からは、走路は反発があり前に進みやすい、練習に気持ちが入るなど喜びの声も出ている。今後、好記録出の期待が持たれる」と歓迎している。

紫外線対策は年間を通して サンスクリーン剤を適切に



最近、夏が終わってもサンスクリーン剤（日焼け止め）売り場が広く設置しているお店が増えたように感じますが、皆さんは冬も紫外線対策をしていますか。5月の紫外線量は8月と同じだという話をよく耳にするようになりました。そのため、多くの人がゴールデンウィークごろから対策を始め、少し肌寒くなる9月下旬ごろから新しい日焼け止めを買わなくなるのではないのでしょうか。しかし、冬真盛り2月の月でも真夏の80%もの紫外線が降り注いでいるそうです。

紫外線には波長の異なるUVC、UVB、UVAがありますが、オゾン層を越えて私たちのもとに届くのはUVBとUVAです。それぞれシミ、シワの原因となります。UVBはUVAよりエネルギー量が高く、皮膚への影響が強いため、紅くヒリヒリする日焼けを引き起こします。これは皮膚を衰えさせ、また、元に戻すために体力を無駄に消費します。過度に紫外線を浴びることはシミやシワだけでなく、皮膚がんなどの原因となることもあります。

サンスクリーン剤は紫外線の皮膚への到達を減らすもので、

SPFがUVB、PAがUVAの防御指数です。防御指数と持続性に関連性はありません。どれだけSPF値の高いものを使用してもこまめに塗りなおすことが必要です。また日常生活ではSPF10、PA+程度のもので十分だそうです。

紫外線を浴びると骨や毛の発育に必要なビタミンDを生成するという有益な作用もあります。よって、日差しの強い夏だけでなく、一年を通して適切なサンスクリーン剤を使用し、適度に日光に当たることが良いでしょう。

【巻欄仁美、本多里菜】

弓道部

全日本学生選手権

個人戦に4人が出場

小林（1年）が八寸まで進出の健闘



▲ 全日本選手権の会場前で記念撮影

全日本第63回全日本学生弓道選手権大会の個人予選が7月5日、獨逸大学で行われ、小林真也（経済1）、阿部賢太（理學2）、戸塚祐史（経営4）、主将の宮田光二（経営4）が2次予選を通過し、8月11日から14にかけて愛知県名古屋市の日本ガイッホール開かれた全日本大会に駒を進めた。

試合は、小林が八寸一本目敗退、阿部が二寸目敗退、戸塚が三寸目敗退、宮田が四寸目敗退とい

剣道部

創部50周年記念式典

剣道部の創部50周年を記念する式典が9月12日夕、東京・池袋のホテルメトロポリタンで開かれた。記念式典にはOB、OGをはじめ、現役の部員ら計100人が出席。剣道部の節目を祝った。

剣道部剣心会の端山照一会長（昭和48年度卒）は、今日は昔を懐かしみ楽し、過さしていただきたい。健康に留意されて、またお会いできる日を楽しみにして会を盛り上げていただくご挨拶。また、現役の人たちを一層バックアップするために、会費を上げさせてもらったと述べた。

続いて、部長の野村素雄副学長は「先輩たちは、鈴木温先生に指導されて、城西魂をたたき込まれたことがあって、創立とともにある剣道部は城西大学の誇りであると思います。現役の剣道部員はこれからの日本を背負って立つわけですが、そういう意味で剣道部の長き伝統を引き継いで、素晴らしい剣道部を創って、後輩に引き継いでほしい」と挨拶。今年、発足した剣道部父母の会の篠栗英会、長も50周年を機に、父母の私たちが「丸とをなり、支



▼ 50周年記念誌



良き伝統を後輩に引き継いで